

南海トラフ初の注意情報

気象庁「可能性高まる」

宮崎でM7.1、震度6弱

気象庁は8日、南海トラフ巨大地震の臨時情報で「南海トラフ巨大地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっている」として注意情報を出した。午後4時43分ごろ、宮崎県南部で震度6弱の

地震があり、調査していた。最大規模の地震が発生した場合、関東から九州にかけての広範囲で強い揺れ、関東から沖縄にかけての太平洋沿岸で高い津波が想定される」として、注意を呼びかけた。

臨時情報は「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」として、2017年11月に運用が始まった。19年に「南海トラフ地震臨時情報」と名称が変わり、現在の基準に改定されている。臨時情報が発表されるのは今回の地震が初めてとなった。

気象庁によると、震度6弱の地震の震源地は日向灘で、震源の深さは約30^キ。

地震の規模はマグニチュード(M)7.1と推定される。震源地は南海トラフ巨

大地震の想定震源域の範囲内にあり、情報を出す条件となるM6.8以上だったため、臨時情報を出したと説明した。



備えの再確認

- 常に家族の所在場所を把握
- 非常用袋やヘルメットを玄関に
- 寝るときは枕元に靴を置く